

2014年10月1日(水)～10月30日(木)

寄贈品コーナー「平塚の地盤と活断層」

2011年3月11日の東日本大震災から3年半が経過しましたが、未だ仮設住宅で生活している方々も多く、震災の爪痕の大きさがうかがわれます。相模平野地域でも、平塚市岡崎・真田・根坂間、秦野市南鶴巻、茅ヶ崎市みずきなどで、液状化により砂が噴出したり地盤が沈下したり、地割れが走ったり、ブロック塀が倒壊したり、瓦が落下したり、電柱が傾いたりしました。被害が出たこれらの地域はいずれも台地を刻む小河川の谷戸で、かつての水田地帯であり、厚い軟弱地盤からなっているところでした。この地震を契機に、博物館には、市民の皆様から地盤についての問い合わせが多数寄せられ、地盤に対する感心の高さがうかがえました。こうしたことから、博物館ではたびたび地盤に関する展示を行っています。2007年に刊行した特別展示解説書「平塚周辺の地盤と活断層」と「平塚周辺の地盤図」(25,000分の1)は、展示期間中に売り切れてしまいましたが、要望が多いことから、増刷し受付にて販売しています。ここでは、「平塚の地盤図」を展示し、私たちの暮らす地域の地盤がどんな地形からなり、どのような地層からなっているのか、どういう地盤が軟弱地盤と呼ばれるのか、液状化はどういうところで発生しやすいのか、活断層はどこに走っているのかなど、私たちの住む平塚の地盤について展示します。神奈川県は相模湾を走るプレート境界の北側に位置しており、地殻変動の激しい場所ですから、地震による変動と向かい合っていかなければなりません。この機会に私たちの住む平塚の地盤について、見直していただけたらと思います。



寄贈品コーナー「平塚の地盤と活断層」の展示風景



展示解説書「平塚周辺の地盤と活断層」